



はっとりけんや  
服部賢也

生年月 1986年9月静岡県生まれ  
最終学歴 2011年神戸大学大学院  
工学研究科修了  
業務経歴 2011年(株)大林組入社  
2012年大阪本店構造設計部  
2014年東京本社構造設計部  
2016年大阪本店構造設計部  
2021年設計本部  
大阪構造設計部

●担当した主なプロジェクト

- ・川崎重工業株式会社明石工場総合事務所
- ・KDDI大阪第2ビル
- ・渋谷駅南街区プロジェクトB-1棟
- ・リーベルホテル アット ユニバーサル・スタジオ・ジャパン
- ・THE HIRAMATSU京都
- ・コアツ機器開発棟
- ・大阪駅西北ビル

■青年技術者のことば

新しいプロジェクトが始まる時はいつも自分の中でテーマを決めて取り組むようにしています。京町家の保存改修プロジェクトでは建物の歴史や地域性から構造設計のあり方を探りました。企業の研究開発施設では意匠性を兼ね備えた構造ディテールに徹底的にこだわりました。また、複合ビルの設計においては課題に対して技術的なアプローチで解決策を見出しました。いずれも構造設計者として必要な視点であり、そのひとつひとつの積み重ねが将来を作ると考えています。

昨今、多様性やSDGsなどが叫ばれていますが、設計実務においても多様な価値観が求められていると日々感じています。その要求に答えるためにも日頃から多様な視点をもって設計に取り組もうと心掛けていますが、その中でもひとつ軸となる考え方を上げるとすれば、建物の利用者やプロジェクトに関わる人ために設計をする、ということです。発注者のためというのはもちろんですが、その先にいる利用者や社会のためを思って設計をしたいですし、一緒に頑張るメンバーの「こうしたい」という思いを叶えてあげられる設計者になりたいと思います。

■すいせん者

西影武知  
(株)大林組 大阪本店  
設計本部大阪構造設計部 部長

高耐力板壁工法による京町家の保存改修 —THE HIRAMATSU 京都—

はじめ

本建物は、「京町家で育まれた価値を未来に引き継ぐとともに、京都の活性化に貢献する」をコンセプトに京町家を保存し、既存改修・増築によりホテルへと転換した計画である。敷地内の建屋は、ホテル棟・蔵棟・表家棟の3棟で構成され、中でも表家棟は、エントランスロビーとして既存躯体を残し耐震改修する計画とした。ホテル棟・蔵棟はRC造の増築部分に当たるが、母屋の小屋組を復元することで既存躯体のデザインを取り入れている。京町家

の本質的価値を継承し、蔵や庭など京町家を持つ構成を踏まえて空間と機能を再構築し、ユニークで付加価値の高いホテルを計画した。

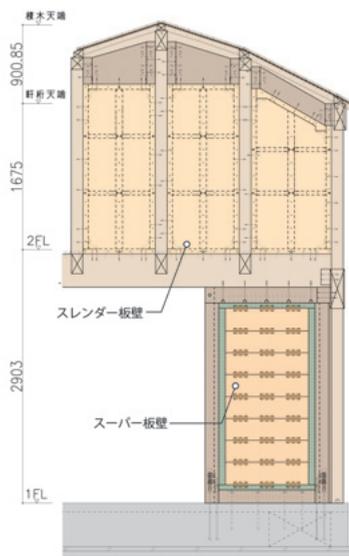
スーパー板壁工法による意匠性と耐震性の両立

表家棟である既存躯体の耐震補強には、高剛性・高耐力の耐力壁（スーパー板壁工法・スレンダー板壁工法）を採用した。スーパー板壁工法は、国内初の板中1間で壁倍率10倍以上を確保できる画期的な性能を有する木造板壁で、高い剛性と耐力を発揮できるた

め従来に比べ耐震壁の設置箇所を低減できる。そのため、1階の外壁面に採用することでホテルのエントランスにふわしいプランニングを可能とした。一方スレンダー板壁（一般的な片面仕様の合板壁より剛性・耐力が高く薄厚で補強可能な耐震壁）は配置自由度が高い2階に採用し、既存土壁がある箇所でも柱の増打をすることなく室面積を最大限確保した。以上の補強により、表家棟は極めて稀に発生する大地震に対して層間変形角1/30以下となる耐震性を実現した。



建物外観



スーパー板壁・スレンダー板壁 詳細

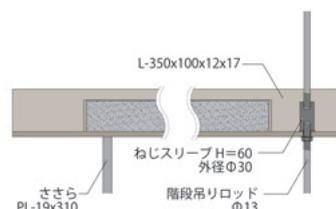
浮遊感を演出する吊り階段の構造ディテール —コアツ機器開発棟—

建物正面のシザース階段が透けて見えるガラスファサードは上下方向の解放感を演出するとともに、吊り構造の階段により浮遊感のある踏面・吊りロッド・サッシ・外装ルーバーの積層する構成により奥行きある豊かな表現が象徴的なデザインとしている。

側をササラ、片側を吊りロッドにより支持する構造を計画した。ササラは稲妻型の竜骨でダイナミックな印象を与える一方、吊りロッド側はできる限り細い径を選定し透明感・浮遊感に配慮した。段板には「不等辺山形鋼」を、吊りロッドとの接続には「ねじスリーブ」を用い、意匠性にもこだわったディテールとしている。

構造計画のポイント

透明感・解放感を実現するために、片



吊りロッド接合詳細



建物外観



吊り階段